

インフォメーション

問い合わせ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp



講座

初めての市民活動を応援します「はじめての助成金申請」

日 時：11月24日(土)

「はじめての助成金申請 助成金基礎編」10:00～11:00 「はじめての助成金申請 見せ方アピール編」 11:10～12:10

内 容：市民活動を立ち上げ予定の方、助成金の申請を考えている方を対象に、活動資金についての基礎から、知っておきたい助成金の特性、申請書を書くコツを学ぶ講座を実施します。どちらか一方だけでも、両方でも受講可能です。

会 場：仙台市市民活動サポートセンター 研修室5

定 員：各15名(先着順)

対 象：これから活動を始めようと考えている方 新たに助成金申請を検討している方
資金調達の必要性に迫られている団体 助成金の獲得に苦労している団体
新規設立団体・NPO法人など

参加費：無料

問い合わせ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター

メールでお申込の方は、件名を「はじめて講座」として、氏名・電話番号・質問事項をお知らせください。



20期事務用ブースの使用者追加募集!

使用期間：平成31年2月1日～8月31日

(最長3年まで使用可能ですが、継続にあたり審査があります)

対 象：継続的に市民活動を行い、市内に専用事務所をもたない団体(事業者は除く)

募集数：1ブース

設備等：机、椅子、ロッカー

面 積：4㎡

使用料：月額7,100円

申込受付期間：平成30年12月7日(金)まで

応募方法：仙台市市民協働推進課と仙台市市民活動サポートセンターで配布する申込書にご記入の上、仙台市市民協働推進課へ持参してください。(郵送不可)

仙台市ホームページからもダウンロードできます。

HP <https://www.city.sendai.jp/kyodosuishin/kurashi/manabu/npo/support/booth20.html>

問い合わせ・申込み：仙台市市民協働推進課 TEL 022-214-8002

(仙台市青葉区二丁目1-23アーバンネット勾当台ビル2階)



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 11月14日(水)、28日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分

[HP] <http://www.sapo-sen.jp> [Blog] <http://blog.canpan.info/fukkou/> [Twitter] @sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、
仙台の市民活動団体やワクワクビト取材しています！

▶市民ライター

http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶情報ボランティア@仙台

<https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai>

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2018年11月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鎌田みずほ 水原のぞみ
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

はねっと 11

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2018 No.231

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、
それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

FabLab SENDAI - FLAT マネージャー・デザイナー
一般社団法人FLAT 代表理事

おの での し の
小野寺 志乃さん (29)

ものづくりと市民を フラットにつなぐ

ファブラボ センダイ フラット
FabLab SENDAI - FLAT(以下、ファブラボ)には、
プラスチックから様々な部品を成形する3Dプリンターの他、木材や布の表面に印刷ができるUVプリンターなどのデジタル工作機器が備わっています。代表の小野寺志乃さんは、「ここは、自分のアイデアをカタチにできる“ものづくりの実験・実践の場”です」と企業の製品開発者やエンジニア、大学生らとの試行錯誤を楽しみます。小野寺さんは子どもの頃から、組立図を見ずに雑誌の付録を作ることや、パソコンで絵を描くことが大好きでした。大学院では身の回りの工業製品を設計するプロダクトデザインを専攻。和紙や漆といった工芸にも触れたことで、素材の面白さを実感しました。

「素材からものづくりを考える楽しさを伝えて、ものづくりの裾野をもっと広げたい」と様々な素材で食器や雑貨などの身近な日用品を作るワークショップにも力を注ぎます。気軽にものづくりに触れられる場所にするためのチャレンジは続きます。

取材・文 市民ライター 福地 裕明

特集

一人ひとりが自分ごととして、

多様な性のあり方を捉えられる社会に

「にじいる協働事業」

FabLab SENDAI - FLAT(ファブラボ・センダイ・フラット)

住所 仙台市青葉区一番町2-2-8 IKIビル4F 営業時間 水・金・土曜 10:00～20:00

HP <http://fablabsendai-flat.com/> 連絡先 info@flatjp.com

ファブラボは、世界20カ国以上にある市民工房です。仙台では2013年5月にオープンし、翌年4月に一般社団法人化。小野寺さんを含む2名のスタッフで運営しています。デジタル工作機器の使い方は、初回の講習会で学ぶことができます。講習料は2,000円から。誰もがふらっと立ち寄り、ものづくりの楽しさを味わえる場を目指しています。

一人ひとりが自分ごととして、多様な性のあり方を捉えられる社会に「にじいろ協働事業」

「にじいろ協働事業」は、地域の課題解決や魅力向上を目的に、市民が提案した事業を仙台市と協働で実施する仙台市市民協働事業提案制度の平成30年度事業として採択されました。性的マイノリティの当事者や中高生、大学生、行政職員など10人以上の市民が「にじいろキャンパスSENDAI」(以下、にじいろキャンパス)という協働チームを結成。「多様な性のあり方」の理解を深め、一人ひとりが自分ごととして捉えられる社会を目指す取り組みを紹介します。

LGBTとは	
Lesbian	(レズビアン＝女性同性愛者)
Gay	(ゲイ＝男性同性愛者)
Bisexual	(バイセクシュアル＝両性愛者)
Transgender	(トランスジェンダー＝ 出生時に決められた性別と違う性別で生きたい人)
の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティの総称として多く使用されていますが、その他にも様々な性のあり方が存在します。	

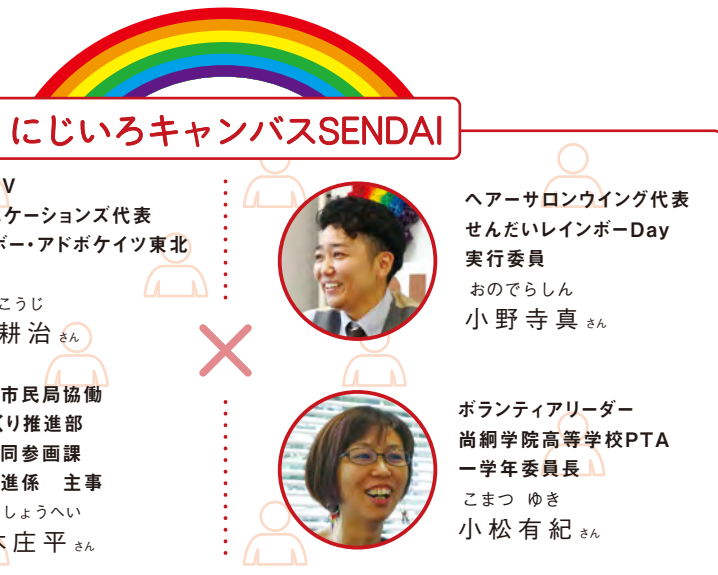
同性に恋愛感情をもつ人や、自分の性に違和感がある人などを「性的マイノリティ」といいます。「異性を好きになるのが普通」、「生まれた時に決められた性別に合わせた生き方をするのが当然」としている社会から見て、少数者という意味です。しかし性には体の性(生物学的性)、心の性(性自認)、好きになる性(性的指向)があり、3つの性の組み合わせに決まりはなく、様々な組み合わせがあります。この多様性を指して、「多様な性のあり方」と言います。参考:仙台市HP「多様な性のあり方(性的マイノリティ、LGBTについて)」

当事者と市民を繋ぐ市民協働

「にじいろ協働事業」を提案した東北HIVコミュニケーションズは、AIDSによって自らの生命や生き方に影響を受けた人々が共に生きる社会をつくることを目的とした市民団体です。代表の小浜耕治さんは自らも性的マイノリティ当事者であり、東北地方のセクシュアリティを巡る状況を把握しその改善に取り組む団体、レインボー・アドボケイツ東北の代表も務めています。小浜さんは「性的マイノリティの存在が見えないために、多様な人々が共に生きることが難しくなっています。性のあり方によらず多くの人をつなげていきたい」と、市民・企業・行政等との協働により多様な性のあり方への理解を広げようとしています。

協働で進めている事業は4つ。性的マイノリティの当事者を講師として行政や企業に派遣する「にじいろスピーカー派遣」、事業の進捗や多様な性をめぐるトピックスを伝える広報誌「にじのたね」の発行、毎月1回誰でも交流・情報交換できる「にじのひろば」の運営、多様な性のあり方に触れられるイベント「せんだいレインボー Day」の企画開催です。

仙台市は、平成28年3月に策定した「男女共同参画せんだいプラン



2016」に新たに盛り込んだ「多様な性のあり方についての理解の促進」に向け、この協働事業に取り組んでいます。男女共同参画課の松本庄平さんは、「我々が机上で考えるのではなく、当事者の思いを直接聞き、一緒にアクションできるのは協働だからこそ」と言います。

それぞれの立場で動き出す

松本さんは、「ある調査結果で、“あなたの周囲にLGBTの人はいますか”という質問に対して“はい”と回答した方の割合が、同性婚や同性パートナー法が認められている欧米諸国では50%以上なのに対し、それが認められていない日本や韓国では10%未満(※)。つまり“見えない存在⇒いないこと”になっているのでは」と危機感を抱いています。にじいろキャンパスのメンバー、小野寺真さんはトランスジェンダーです。青葉区一番町で理容室を営む傍ら、多様な性の認知拡大のため個人で講演活動をしています。小浜さんとは、性的マイノリティの啓発イベントで知り合い、当事者だけでなく市民を巻き込む今回の提案に共感。2018年7月に実施した「せんだいレインボー Day」では、実行委員として活躍しました。小



連絡先 ●にじいろキャンパスSENDAI 〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2
みやぎのいのち人権リソースセンター内 東北HIVコミュニケーションズ
TEL/FAX 022-298-8532 Mail office@sendai-nijiiro.org
HP <https://sendai-nijiiro.org>

野寺さんは、「自分はトランスジェンダーだが、同じ性的マイノリティでも、L・G・Bのことはよくわからない」と明かし、だからこそ理解し支援する立場でもありたいと話します。

小松有紀さんは小野寺さんに誘われ、にじいろキャンパスのメンバーに。尚綱学院高等学校のPTA一学年委員長で、高校一年の娘を持つ母親です。男女で違う制服に違和感を持った娘の思いに共感し、「男・女はこういうもの」という固定概念のもとに進められる教育に疑問を持ちました。小松さんは、「教育の中に多様な性のあり方について知る機会が必要なのは」と、PTA行事で当事者を招いた講演を企画。講師を探していた時にSNSで小野寺さんを見つけ、依頼したのが出会いでした。小松さんはその後、娘や娘の友人たちと「せんだいレインボー Day」にボランティアとして参加。「一緒に活動することで存在が身近になった。とにかく楽しかった」と振り返ります。

個として尊重し合える社会へ

「当事者からの発信だけでは理解されにくかった問題も、多様な主体が協働することで、それぞれの立場から広がっていく。それが共生に繋がる」と小浜さんは言います。立場は違っても、それぞれが個として尊重し合うことで、多様な性のあり方を自分ごととして捉えられる社会を目指します。

(取材・文 舞草小春)
※出典：NPO法人EMAJAPAN・2014

誰もが暮らしやすい
ノーマライゼーション社会を目指して-CIL たすけっと-

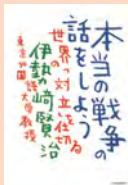
「CIL たすけっと」は、障がい者自身が同じ視点で障がい者の自立を支援する「障がい者自立生活センター」を運営しています。自立生活プログラムの実施、介助者派遣サービス・移動サービスや福祉制度などの情報提供などを行っています。団体が考える自立とは「自分で選び・自分で決める」ということ。人権擁護活動も積極的にを行い、当事者が生活の主体者になることを大切にしています。

問い合わせ 〒982-0011 仙台市太白区長町1-6-1
TEL 022-248-6054 / FAX 022-738-9501
Mail cil-tasuketto@k6.dion.ne.jp

お読みください 本当の戦争の話をしよう 世界の「対立」を仕切る

著者：伊勢崎賢治 出版：株式会社朝日出版社

国連平和維持活動(PKO)で日本が果たす役割について一緒に考えよう。国連職員や日本政府の一員として、停戦監視や武装解除を担当した著者が呼びかけます。「戦争の最中では軍事力が必要だが、戦争の原因を取り除く、あるいは和解促進や戦後復興のための活動も同じくらい重要」と言います。戦後復興には、平和国家日本の立ち位置や経済支援といった得意技が効果を発揮するとも話します。平和への貢献方法を、様々な視点で考えさせてくれます。



お読みください 「仙台自主夜間中学」ボランティアスタッフ募集中

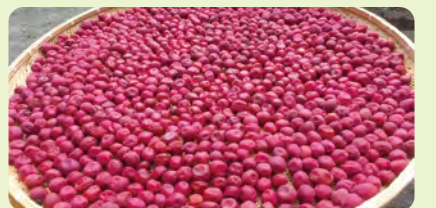
仙台自主夜間中学は、小・中学校を卒業していても、さまざまな事情から「基礎学力を身につけたい」「学び直したい」という人達のための学びの場です。一人ひとりの生徒さんに丁寧に寄り添うために、より多くの講師・運営サポーターとして活動できる方を募集しています。資格・経験を問いません。

問い合わせ 080-9016-6322(担当:中澤)
Mail sendai.yakan@gmail.com
Blog「仙台自主夜間中学だより」<http://blog.canpan.info/yakan/>



大豆や梅が熟成し、人も共に成熟していく

特定非営利活動法人ソイプラム(以下、ソイプラム)は、仙台市青葉区中山を拠点に活動する自助団体です。精神障がい者の社会的自立、当事者とその家族への支援を目的としています。ソイは大豆、プラムは梅の意味の英語です。当事者が社会的経験を積むために行う味噌づくりや、収穫から販売まで担う梅干しづくりに由来しています。当事者、その家族でじっくり熟成するように、心を育み合いたいという願いが込められています。その他、月2回の当事者家族、当事者それぞれのミーティングや、月1回の社会適応訓練を専門家と共に仙台市市民活動サポートセンターにて実施。臨床心理士や当事者、その家族の29人で悩みや困り事を共有し対処法を学び合っています。



▲梅狩り、天日干しやバック詰めまで当事者が作業します。

活動のきっかけは、理事長吉田竹子さんの義妹が統合失調症を発症したことです。「ずっと入院させておくなんてできない。元気な時は家に帰してあげたい」と、施設任せにしない方法を模索。同じ状況の人と情報を共有するため、2006年に吉田さん宅で「親の会」を発足。継続的な活動をするため、2011年に法人化しました。安心して本音を話すことを大切にしています。

「継続することが目標。解決できないことも、解消していくことを目指して事にあたっていきたい」と、吉田さんは今後の活動にじっくり向き合います。1人で抱え込まずにソイプラムのような団体に相談すること、それが孤立防止の第一歩だと思いました。

■連絡先
特定非営利活動法人ソイプラム
〒981-0952 仙台市青葉区中山4-13-18
TEL/FAX 022-279-4259
Mail npo.soyplum@gmail.com